

株式会社 全国商店街支援センター

平成27年度 商人塾支援事業

(事業報告書概要版)

実施機関: 杉並区商店街振興組合連合会 (東京都杉並区)

参加商店街: 高円寺あづま通り商店会、高円寺北中通り商栄会、
高円寺銀座商店会協同組合、高円寺パル商店街 (振)、
新高円寺商店街振興組合、高円寺南商店会、タウンセブン会、
西荻北銀座商友会、八丁通り商店会、高円寺中通商栄会、
エトアール通り商店会、馬橋商興会

コーディネーター: 新 雅史(学習院大学)

2020年東京オリンピックと観光と商店街とまちづくり

オリンピックと商店街の観光対応

住みたいまち、行きたいまちづくり

個店の関わりと商店街組織の活用について



カリキュラム

第1回

インターネットTV番組活用と制作（「孤独のグルメ」作者久住 昌之氏）



第2回

観光対応の商店街の商機（社）日本観光振興協会 丁野 朗氏



第3回

商店街と地域コミュニティ連携
粋なまちづくり倶楽部 山下馨氏 東京大学教授 小泉 秀樹氏



第4回

商店街と地域コミュニティ連携
自由が丘商店街振興組合事務所中山 雄次郎氏



第5回

議論の深化、論点整理、発表



第6回

卒塾論文発表、コーディネーター総括

想い

(なぜ、商人塾を実施しようとおもいましたか?)

生鮮3品の棲み分けがひと段落し現在のところ脅威とまではいかないが、生活に密着した商店街として成り立つには、生鮮3品を含め消費者のニーズに応えられる環境とは言い難い。新宿、吉祥寺に挟まれ、地元での消費が流れてしまっている状況である。

阿波おどりをはじめとした高円寺4大祭りといわれる催しによる集客力は強く、人通りが多いものの催事に参加しても自店は儲からないといった、商機を活かす商人としての自覚の欠如が多くみられる。

一方、催事開催による商店街役員の負担、役員の後継者の問題が如実化しており、商店街役員の疲弊は、本来あるべき商店街や街づくりや、商店としての役割を実現する意識が育つ環境とは言い難く、問題意識が低いと言える。

東京オリンピック招致に沸く状況を歓迎する機運はあるが、実際に商店街として何をすべきかを検討することもできていない。

塾の受講を通し、地域コミュニティと商店街の役割への気づきを期待する。

ねらい

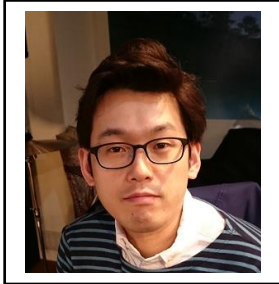
(どういうポイントで塾をすすめましたか?)

- ・これからの高円寺、杉並区の商業を担う人材の育成
- ・自発的商店街の活用により地域と自店の発展を思考できる人材の育成
- ・既成の組織（商店街、自治会、行政等）と連携できる人材の育成
- ・商店街の枠を超えた人材ネットワークの形成
- ・地域コミュニティ連携による、在住者と来訪者のコミュニケーションを考える。
- ・各店舗の商機対応と情報発信、商店街組織を活用することを学ぶ。
- ・インターネットTVの活用と街のアピールとは何か。
- ・周囲の自治体（町会）との連携の模索
- ・受講生を中心とした自由に参加できるグループを形成し、定期的に会議や勉強会を開催し、企画やイベント、運営の実行案などを提言し実行するグループに育て、既成の商店街の運営などに積極的に参画していく。
- ・自主組織による地域コミュニティの形成と観光対応について、現地調査にて学ぶ。



コーディネーターから

(できたこと・できなかったこと)



成果として、①事例を学ぶことの大切さをしったという反応があったこと、②先行事例と自分たちの地域と比較しつつ考える回路をもつことができたという反応があった、ことの2点をあげることができる。商人塾を開いたばかりのころは、事例を学ぶことにどれほどの意味があるのか、という反応も多かったが、事例を知ることによる塾生の変化は目をみはるものがあったと思われる。また、塾生からの反応として、どの地域も同じような課題に直面していること、いっぽうで、同じような取り組みをおこなっていても、効果や結果が異なるのがなぜかという新たな問いが浮かび上がった、というものがあつた。非常に興味深い問いであると思われる。また、この問いをもった塾生はみずから他の事例を学ぶために視察をおこなう予定であることをコーディネーターに述べた。今年度の商人塾は、自分たちの地域の課題が何であるかを、他の事例と比較することによって、つまびらかにするというものであつたが、各塾生が感じた課題から、観光ビジョンや具体的な実践について議論するフェーズに進むことがなかなかできなかった。来年度以降は、こうした実践にむけての計画づくりが求められるだろう。

今後に向けて

(商人塾を受けて変わったこと・起きたことは？)

商人塾の成果を今後どのように活かしていきますか？)

中央線の杉並区部は地域資源に恵まれているにもかかわらず、インバウンド対策などにおいて、他の区部に比べて遅れがあつた。こうした遅れを自覚するとともに、今後、地域資源をどのように掘り起こしていけばよいかという観点から、計画的な視座を今回の商人塾で持つことができた。来年度、商人塾事業を継続できるかはわからないが、杉並区部の歴史を掘り起こす部会、あるいはインバウンド戦略を構想する部会など、自主的な勉強会を立ち上げることができればよいかと考える。

卒業生代表

(商人塾で得たことは?)



今回の「2020年東京オリンピックと観光と商店街とまちづくり」というテーマにおいて、観光は商店街とは無縁と考えていた。

しかし、観光名所が無いことによる観光対応の重要性に大きな気づきを感じました。

観光名所は毎日同じものを見る必要は無く、その地域に滞在して、見てもらう、触れてもらう、生活してもらうことが何よりなような気がします。そして他の観光名所にも言ってもらえるキーステーション的観光対応も重要なのかもしれません。

また、自由ヶ丘と神楽坂のその地域の歴史を踏まえた特徴を生かし活動していることに気づかされました。高円寺の活動においてもこの方法は適切であり重要であると考えている。

今後、受講生を中心に交流を広げ、情報交換を続けつつ、今回学んだ、商店街の観光対応を実施していきたい。